

第3回 むつ下北私たちのまちづくりフォーラム

とりまとめ

アゲハの夜景と都市計画 ～これからのまち（都市）づくり～
H.29.5.20.（土）

パネリスト

宮下宗一郎むつ市長

高山泰氏（国土交通省都市局都市計画課都市機能誘導調整室長）

倉田直道氏（工学院大学名誉教授 アーバン・ハウス都市建築研究所代表）

松浦良博氏（松浦偉一級建築設計事務所代表）

清川わか氏（下北未来塾塾長）

コーディネーター

今井晴彦氏（都市計画・まちづくり専門家 株式会社サンプランナーズ代表）

スケジュール

14：05 むつ市からの立地適正化計画説明

14：20 国土交通省都市計画課からの制度説明

14：35 休憩

14：45 パネルディスカッション

16：00 終了

パネルディスカッション

・市長

むつ市の人口 現在6万切った。40年には4万人を切る。60年には3万人を切る。

人口減少の歯止め、なかなか止まらない。

街全体のキャパの問題 10%超が空家の状況

人口収縮の中でのまちづくり←コンパクトシティ

アゲハの夜景の形が都市の外縁。この中に収められればいいまちづくり。

・清川氏

仕事先が市街地にある人は市街地に家を建てている。

陸前高田では、7階建てのマンションから漁業者らが通っている。しもきたではそういうことは大変。漁師、農業者は車の運転大変。そういう人たちの方向性も考えてほしい。

・松浦氏

海を生業にしている人はそこから離れられない。(仕事している場所から遠くへ離れることができない) 市の制度(立地適正化計画)は強制力がそれほどでもないからよいと思っている。第1次産業を大切にすること(制度)が必要。

・国土交通省 高山氏

街中に生活に必要な施設を。

- ・病院・社会福祉施設等→補助する(公共主体)
- ・土地の提供→直接民間へ補助
- ・区画整理事業←補助(まちなかを整える)

※お金がかかる仕組みは長続きしないので、補助金は呼び水と考えたほうがよい。

他の事例(町によって相違あるが)

- ・病院を建てる際に他の施設も入れた。
- ・大学がない地域で学部を誘致した。

それぞれの都市の課題によって何をするかの工夫をすることが大切

・倉田氏

拠点の作り方。

暮らしている人の立場からすると 多世代の人の居場所づくりが必要。

大型店は居場所を提供しない。病院等の施設を集めるのも重要だが、市民にとっての居場所を作ることが大切。

居場所づくりが様々なところで行われているが、学生も、学校以外に過ごせる場所が少ない。

子育て支援施設も近くに作る。高齢者の立ち寄れる場所も作る。

こういう多世代の居場所を集めることも大事。(自然と交流の場となるように)

・市長

多世代の居場所を集めるということは重要な視点。

むつ市では第1点として、ウェルネスパークや広場、今度造る体育館を総じておおみなと臨海公園と名付け、新しいスポーツ施設(健康づくり・防災拠点)としようと考えている。

第2点として、金谷公園もPFI事業で人を集め、キッズパークと一体的利用をさせて子育て拠点、居場所づくりをしていきたい。

水源池公園の整備もほぼ完了し、観光客を含めた新しい場所づくりととらえている。

公園も大きな拠点と考えている。

・国交省 高山氏

次に家を構える場合、街中の方がよい、と思ってもらえるようにする、そういう PR をしっかりしなければならない。

アゲハの夜景は、その意味が判ればとてもよいアピールになる。

・清川氏

田名部高校には昔、寮が 3 つあり人も交流（生徒だけでなく親も）。

そこから大畑や川内、大間へも行った。寮があるのもよいのでは。市街地に自然と集まる一つの方策となるのではないか。

・松浦氏

下北は海に囲まれている。漁業、農業、林業が必要。取れたものをまちなかで売れる仕組みを作ればどうか。

しもきた的発想のコンパクトシティが必要では。

街と連携ができればいい。今回の都市計画はとてもよい。

・倉田氏

20 年前にコンパクトシティ論を依頼されて書いた。

ポイントは車社会→住むところの分散。

交通問題を考える必要あり。

交通弱者の増加の中で、移動手段を確保できるようにしなければならない。

アメリカもコンパクトシティにおいてまず交通問題を考えていた。

現在の公共交通のみではなく、タクシーとバスの中間のような乗り物が必要。

もう一つ、歩けるところでの生活圏を作ること。歩くことによる人との接触が大切。

居住スペースの選択肢が少ない。選択肢を増やす工夫を。←誘導地域を活用する。

色々な住まい方を選べるようにすることが大切。

- ・高齢者がまちなかで人々に支えられながら住むというスペース

- ・新しい暮らしの器を居住スペースに作る←生活サービス作る

・清川氏

バス、鉄道が移動手段の時代であった。交流をどうするか。

・市長

コンパクトシティ化は今の住まいを否定しているのではない。どう住まうていくかである。

交通手段を今までと違った形で確保することが必要。

コンパクトシティという新しい住まい方の提供の際に交通手段確保が必要と考えている。

新しい暮らしの提供→まちなか居住を PFI でと考えている。三世代交流なども考えている。

居住調整地域は全国で初めての取組。20年～30年後を見据えて都市計画としてしっかり機能させたい。

市は全体構造を作った。これから中身を作らなければならない。

外への開発はやめようというメッセージ。

・今井氏

第1回にコンパクトシティをテーマとした。今回は市のプランを聞いた。

前は空家問題をやった。人口減少の中でどう処理するか、うまくやれば活用できる。次回は細かい話をしていきたい。

・倉田氏

アゲハの夜景 黒いところが大切。大事な資源だと思う。

・市長

まさにそのとおり。

様々な都市計画案を市民に意見を聞きながら進める。

都市の外縁を保全すべき自然ととらえなければならない。下北・むつの自然を守りたいという思いがあること、都市計画という手法で守っていくことを理解いただきたい。